

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように話したり、相手の伝えたいことを聴き取ったりすることに課題がある。 考えたことや、伝えたいことを分かりやすく文章にして表すことに課題がある。 物語文を場面の変化に着目して読み取れている児童がいる。一方で、説明文では、筆者の考えの要点を捉え、それを基に自分の考えをもち、伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と意見を交流する機会を多く設け、自分の考えを話したり、友達の考えを聴いたりすることの楽しさを味わえるようにする。 書くことを習慣付けるとともに、推敲したり、友達と読み合ったりして、表現力を高める。 説明文では、キーワードをつなげて内容を短くまとめながら読み取り、筆者の考えを捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と意見を交流する機会を多く設けた。友達の考えを聴くことで幅広い考え方を知る楽しさを味わえた。 ○説明文では、キーワードをつなげて筆者の考えを要約できるようになった。 △主語、述語、修飾語など文法の理解に課題がある。理解が深まるように反復練習をする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料や生活経験から、身の回りにある事柄について疑問をもち、自分たちで学習問題を立てることができた。 資料（地図、写真、グラフ、年表など）を読み取る力や、読み取った情報を整理して考える力を高める必要がある。 調べたことをノートやポスター、新聞、スライドなどに表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の問いから学習問題を設定し、児童が意欲的に学習に向かえるようにする。 複数の資料から情報を選択、比較し、整理できるよう、資料の見方を指導し、読み取る活動を積み重ねる。 おすすめノートを紹介し、資料の読み取り方やまとめ方の良さを児童がイメージできるようにする。 単元のまとめの学習で作品を掲示したり、発表をし合ったりすることで、表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提示資料から学習内容に興味関心をもたせることができた。引き続き、児童が興味関心をもてる身近な内容を提示していく。 ○調べたことをポスターにしたり、プレゼンテーションソフトにまとめたりして発表することで表現する力が高まった。 △学習内容について問いをもつことに課題が残った。学習内容を身近に感じさせ、自分事として捉えられるような学習課題を考えていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> わかったことや考えたこと等をノートに書き留めることができるようになってきている。 正確に計算したり、コンパスや分度器などの用具を正しく扱ったりする力に個人差がある。 問題の内容を正しく読み解いたり、様々な解答を考えたりすることが苦手な児童がいる。 問題の場面を図や数直線、言葉、式でノートに表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> けやきタイムに、東京ベーシックドリルの練習プリントなどに繰り返し取り組み、基礎基本の理解を深める。 算数で使用する用具を活用して練習する機会を設ける。 問題の場面について詳しく解説したり、図や数直線、言葉、式などでの表現の仕方を知らせたりする。 友達の考えを自分の言葉で説明する活動を取り入れ、自分以外の考えに触れ、よさに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や数直線、言葉、式などでの表現の仕方を視覚的に分かりやすく伝えたことで問題の場面に対する理解が深まった。 ○考えことを発表し合う機会を多く取り入れたことで、様々な見方・考え方に気付かせることができた。 △基礎基本は定着している児童もいれば、課題が残る児童もいる。反復練習をすることで定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題を見いだす際に日常の生活場面と絡めて考えたり、意欲的に観察・実験に取り組んだりする児童がいる。 仮説（予想）を基に実験・観察を行い、その結果を自身が立てた仮説（予想）と比べながら根拠を明確にして表現することに課題がある。 実験・観察の結果を分かりやすくまとめる力をさらに高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の学習の流れである「問題→仮説（予想）→実験・観察→結果→考察→結論」を定着させることで、見通しをもって学習を進められるようにする。 自身の仮説（予想）と実験結果を比べて考察し、結論を導き出すことを、繰り返しノートに簡潔に書く練習を積み重ねる。 表やグラフ、スケッチなどを活用し、それらについて分かりやすくノートに記入する練習を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決学習の流れを定着させることができた。 ○ノートの書き方カードを活用したことで、仮説（予想）と実験結果を比べて考察し、結論を導き出しやすくなった。 △学習内容を既習事項や生活経験と関連付けて考えさせることに課題が残った。引き続き、学習内容が自分事になるような学習課題を考えていく。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくはっきりした歌声が印象的な児童が多い。歌詞から様子を想像したり強弱の表現を工夫したりして歌う学習に取り組んだ。響きを含んだ自然な発声で歌う学習も続けていく必要がある。 ・リコーダーの息遣いに気を付けながら集中して演奏できる。歌とリコーダーを合わせることができた。 ・音符を見てリズムを理解し、打楽器で演奏することができる。拍の流れを感じ取り続けながら演奏する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌う姿勢のよさを続けられるように声かけし、発声練習から楽しく集中して歌えるようにする。曲へのイメージを膨らませて表現することで、よさや美しさを感じ取ることに繋げる。 ・低い音に続いて、サミングでの高音が吹けるように指導する。歌とリコーダーを合わせたときの聴き合う心がけを今後も指導する。 ・音符の仕組みの理解を今後も全体で確認し、演奏に生かせるようにする。やさしいリズムの時に速くなりやすいため、基準の拍を明示する音や伴奏を常に添えて拍を感じ取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢を保持し、よく口を動かしてのびのびと歌うことができた。曲想や歌詞の意味からイメージを膨らませて、想いを歌声で表すことができた。 ○リコーダーの息遣いに気を付けながら吹ける音を増やすことができた。 ○楽譜をよく見て、音符の仕組みを確認しながら学習を進めて演奏することができた。 △歌とリコーダー、さまざまな楽器など、自分と違うパートを合わせる時に、お互いの声や音を聴き合うことは定着しつつあるが、規準の拍や速さに気を付け続けられるように、今後も指導を続けていく必要がある。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって活動することが難しく時間内に作品を仕上げるのが難しい児童がいる。 ・鑑賞で自分の作品や友達の作品の良さを見つけるのが難しい児童がいる。 ・表したいものに応じて既習した技法を活用しようとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを分かりやすく掲示したり、事前に完成までの期間を明示したりして見通しをもたせる。 ・教師が率先して作品の良い部分を伝え、児童に鑑賞するポイントをつかませる。 ・これまで経験した技法を振り返ったり、目に見える形で掲示したりして、活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の流れをパターン化することで、見通しをもって活動できた。 ○タブレット端末を活用して環境を整えたことで、鑑賞しやすくなった。 △既習事項を生かして活動できていない児童が見られた。学んだことを振り返り、活用していくことができるように支援していく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら進んで運動に取り組むことができる。 ・身体の動かし方に着目し、運動の動きを具体的に思考し、判断して行動する力を高める必要がある。 ・体力を高める運動を習慣的に行うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートを活用し、本時の学習に見通しをもったり、いつでも振り返りできるようにしたりすることで学習がより深まるようにする。 ・運動内容によってどのように身体を動かせばよいのか、身体のどの部分を意識すれば良いのかを考えることで意識して運動できるようにする。 ・体育の授業や休み時間などに身体を動かす機会を多く取り、日常的に身体を動かす習慣をつけることで体力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育ノートを活用したことは、1単位時間当たりの学習を整理し、次時への学習の糧になるなど効果的であった。 ○体の動かし方のコツを適宜伝えたり、手本を見せたりすることで、上達を実感し、達成感を味わわせることができた。 △動作につまずきを感じている子がいる。授業中に身体の動かし方についての映像や図を確認できる環境を整える。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業を通して、授業で取り扱う道徳的価値について考えようとする姿がある。 ・教材で取り扱われている場面を自分事として捉え、生活の中で生かそうすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと考えようしている姿を十分に認め、道徳的価値についての議論が活発になるように発問を工夫する。 ・児童へ「自分ならどうするか」を問うことで学習内容が自分事となるようにする。また、日常生活の中で学んだことを生かせる場面があればその都度、振り返ることで生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○価値項目について、自身の経験を振り返って考える児童が増えてきた。 ○学習のめあてに沿った価値について深く考えさせることができた。 △教材文の内容を自分事として捉えることに課題がある。相手意識をもたせることで、教材文と自身の生活が関係していることに気付かせていく。

総合	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に対して興味関心をもって取り組んでいる児童が多い。外部講師に指導をお願いしたことでより専門的に学ぶことができた。 ・学んだことについてプレゼンテーションソフトを活用して発表した。プレゼンテーションソフトの操作技能に差があるので、操作方法の習得をめざしていく。 ・発表内容を吟味してまとめることや相手に伝わりやすい言葉で発表することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に組み込まれている学習内容について、なぜその学習をするのか価値付けを行うことで、学びがより自分事になるようにする。 ・普段の学習においてタブレットを活用する際に、文章作成や表計算、プレゼンテーションなどのソフトを活用して、これらのアプリケーションに親しめるようにする。 ・学習した内容を発表する機会を多くもつ。経験を積み、振り返りをし、改善をすることで、どうすれば相手に伝わる発表ができるのかを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容について、学ぶ意味を考えさせたことで、より深く知ろうとする態度が育った。 ○タブレットを活用することで、タイピングやプレゼンテーションソフトの使い方に慣れた。 △学習した成果を伝えようとする意欲が高まったが、分かりやすく伝えることに課題がある。国語科の学習を活用するなど教科を横断して指導する。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にALTと交流したり、英語の歌を楽しんだりする姿がある。 ・授業中でのロールプレイングをする際に、習った英単語を活用したり、正しい表現で伝えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に親しんで学習できていることを十分に認め、褒めることで自信をもって英語で伝えようとする気持ちを高めていく。 ・伝えたい英単語を知らせたり、どう表現したらよいかを教師が伝えたり、復唱させたりすることで、正しい表現方法が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の授業を楽しんでいる様子がある。英語を活用してコミュニケーションを図ろうとする姿が増えた。 △英語と外来語の違いについて繰り返し指導していく必要がある。